

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
高等学校	和歌山県立田辺高等学校	中山 浩樹
学校所在地		
〒 646 -0024 和歌山県田辺市学園 1 番 7 1 号 tel 0739 (22) 1880 fax 0739 (22)0636		
担当者名	役職名・担当教科	
大濱 新	教諭 (ESD 推進班長)・地理歴史科	
<p>〔学校の概要〕</p> <p>本校は明治 29 年に創立された和歌山県第二尋常中学校 (明治 34 年に和歌山県立田辺中学校と改称) を母胎とし、創立 120 年を越えている。「合理的な思考」「豊かな情操」「積極的な行動」を教育目標とし、21 世紀に入って力強く、積極的に、心豊かに生きていく力の育成に努めている。現在は普通科と自然科学科 (田辺中学校からの接続) の 2 学科で、生徒は文武両道を目指し、勉強と部活動に励んでいる。</p> <p>2017 年からはユネスコスクールとして、世界遺産の地にある高等学校として「地域」学習と国際理解を結びつけた学習を展開している。また、学習をより効果的に行うために、外部機関の協力により、講師派遣や現地学習を行っている。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等 (延人数)	主な活動場所
学年 全学年 940名	職員28名	本校 田辺市周辺 熊野参詣道 等
実践研究テーマ		
世界遺産の有する地域を学び、グローバルな視点を身につけ、世界に発信する。		
実践教科等名	単元名	
総合的な探究の時間 SEEKER (生徒委員会活動)	「地域の課題解決学習～地域からの発信」 「地域を考え、グローバルな視点を持ち行動する」	
〔キーワード〕 世界遺産保全と活用 熊野参詣道 (熊野古道) 国際理解 地域創生		
<p>〔目標〕</p> <p>一・二学年の総合の時間を通して、それぞれが取り組んだ「地域を知る」・「地域からの発信」をさらに深めるために、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の学習を通して、世界遺産登録の理由、世界遺産に登録されたことによる地域の変化、文化的景観を守ることが地域を守り、地域創生へと繋がることを理解させる。また、急増するインバウンドの状況を理解し、自分たちに身近な「熊野」が国内外から高い評価を受けていることを理解し、この地域に誇りを持つ人材を育てる。</p> <p>さらに、ユネスコスクールとして、世界遺産等を通して「国際理解」をし、ユネスコの目標である「国際平和」に貢献できるための幅広い知識やグローバルな視点を育成する。</p>		
〔学習に当たった全学習時間数 (世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名/教材名)〕		
全体 21 時間 (「総合の時間での講演及び課題解決学習 10 時間 地域観光ゼミ 6 時間 次世代育成事業 5 時間)		
<p>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕</p> <p>田辺市 和歌山県商工観光労働部観光振興課 和歌山県世界遺産センター 立命館大学経済学部 花王株式会社和歌山工場 セールスフォース・ドットコム白浜オフィス等 山森農園 和歌山地方気象台</p>		

実践に関する事項

〔指導計画概要〕

	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	一年次総合学習 1学期：「地域を知る」一学年全員が各自テーマを設定し、総合学習などの時間で、自分たちの地域について調べ学習をし、プレゼンを行う。	田辺市職員による講演などで、この地域が国内外から注目されている点や地域から世界へ発信している事例について学んだ。	総合の時間における評価による
2	一年次総合学習 2・3学期：「地域の課題解決学習」「地域を発信する」ことを目的に、防災・世界遺産・熊野古道・紀伊半島の自然等のテーマ設定を行い、ポスターセッションを行う。	グループに分かれて、地域の企業や団体等を訪れ、現地でのヒアリングや調査を実施した。	総合の時間における評価による
3	地域観光ゼミの実施 探究活動をより深めて行う生徒委員会（SEEKER）の生徒を対象に、世界遺産熊野の観光のあり方・保全のあり方などについて年6回のゼミを開催する。	和歌山県世界遺産センター所長に講師を依頼し、和歌山県の観光施策・世界遺産の保全と活用・観光マーケティング戦略などについて、少人数によるゼミを放課後に実施した。	
4	次世代育成事業への参加 世界遺産保全活動（参詣道保全活動）を通して、自分たちが高校生として何ができるのかを考える。また、この地域が世界から認められた地域であることを自覚する。	世界遺産センター職員による講義や道普請の指導を通して、世界遺産の意義や保全の大切さを学んだ。また、観光地として高いステージにある熊野・高野にふさわしい保全活動が不可欠であることを学んだ。	
5	三年次総合学習：3年間の集大成として、和歌山県世界遺産センター所長による和歌山県の魅力について学ぶ。	和歌山県世界遺産センター所長に依頼し、世界遺産を含めた和歌山県の魅力、次世代の担い手である高校生に求められることなどについて学んだ。	総合学習における評価による

〔学習の成果と課題〕

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から予定していた花王株式会社様との世界遺産保全活動を本校単独で実施するなど、当初の計画を大幅に変更して実施した。総合の時間を通して、地域を学び、生徒が自ら課題解決学習に取り組んでいる。その成果発表として、プレゼンテーションを行うことで、自分の意見を他人に分かりやすく伝える力・質問に臨機応変に対応する力が身につけている。また、二年次では英語によるプレゼンを行う機会をつくり、英語運用能力を身につけている。こうした地域を題材に探究活動を行うことにより、国内外から多くの人々が訪れるこの地域が世界から認められた唯一無二の地域であることに生徒が気付くことができるようになった。この結果、三年生では、県内進学を希望する生徒も増えるとともに、将来、和歌山県・地元での就職を希望する生徒も増えている。来年度に向けても、新型コロナウイルス感染拡大防止から不特定多数と接する機会が多い現地フィールドワークが実施できないため、効果的な学習計画にもとづき学習を展開するかが課題である。

〔世界遺産学習の効果〕

世界遺産学習、特に次世代育成事業に参加し、世界遺産の現状・世界遺産の基本・紀伊山地の霊場と参詣道等を学ぶことで、「熊野地域」の高校生として、「今後も継続して世界遺産の保全と活用に取り組みたい」という意識が高まった。特に、世界遺産講義の前半に、何故、紀伊山地が世界から高い評価を受けているのか、どのような戦略にもとづいて誘客に成功したのかという説明を受けたことにより、「世界遺産に登録すれば継続的に観光客が増加する」という考えは誤っており、訪れる人々が満足するステージの高い環境整備や保全活動を実施する必要があることを学び、生徒が主体的に世界遺産や地域創生に関わっていかねばならないと自覚できたことは大変有意義であった。本年度も世界遺産センター所長による「地域観光ゼミ」を開講し、受講生が世界遺産の保全と活動のあり方や県の世界遺産観光戦略を学び、自分たちにも地域に貢献したいと思う生徒が増えている。また、「地域観光ゼミ」での学びをもとに、国公立大学や私立大学の推薦試験に合格する生徒も多くおり、学習効果は極めて高いと考えている。

〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕

ユネスコスクールとして、ユネスコが「国際社会の平和」のために創設され、そのユネスコと世界の多くの国と締結した「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（世界遺産条約）」は、国際平和と深く関わるものであることを生徒に認識させる必要がある。今後は、世界遺産を観光の側面にとらえる生徒が多いことを踏まえ、世界遺産の歴史やユネスコ憲章前文にあるユネスコの精神を今一度、一年次から学習することが必要と考える。また、田辺市へは世界遺産構成資産である熊野参詣道を歩くために多くの外国人が来訪している。このことから、世界遺産を通して、生徒がグローバルな視点を養えるような学習を展開していきたい。

様式 2

令和元年度 次世代育成事業における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

1 和歌山県世界遺産センター所長・職員による講義

世界遺産センター所長より世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」への誘客に関する和歌山県の取り組みについて説明を受け、世界が認める熊野・高野の魅力について再確認することができた。生徒のなかには、世界遺産に登録されると観光客が増加すると思っていた生徒もおり、質の高い世界遺産を保つために様々な取り組みがなされ、中・長期的な観光戦略が誘客に結びついていることを認識することができた。

また、世界遺産の概要については、同センター職員により説明を受け、神仏習合が顕著に見られ文化的景観が高く評価されて世界遺産に登録されたことを生徒が理解し、自分たちが世界遺産の担い手であるとの認識を持つことができた。



[世界遺産講座]

2 参詣道保全活動

計画では例年に続き花王株式会社和歌山工場の皆様と参詣道保全活動を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止を講じるため本校のみで保全活動を行った。昨年までは、熊野参詣道の傷みのある場所への土入れ作業であったが、今年は、横断溝・側溝にたまった土や枯葉を取り除く作業を行った。これまでの土入れ作業は傷みのある場所に単純に土を運ぶ繰り返しであったが、今回の作業は、横断溝の傾斜や高さなどを考慮しながら作業を行った。

来年度も継続して横断溝などの清掃活動を実施していきたいと考えている。



[参詣道保全活動]

3 熊野参詣道現地学習

新型コロナ対策として一班6人ずつに分かれて、式水から熊野本宮大社まで、和歌山県世界遺産マスター・世界遺産センター職員の方々から説明を受け現地学習を行った。

伏拝王子での和泉式部の伝承や三軒茶屋跡にある道標などで説明を受けることで、千年以上続く熊野古道の歴史を感じることができた。特に、世界遺産マスターの方が本校の卒業生であり、自分たちの先輩から丁寧に世界遺産について解説していただき、生徒にとっては世界遺産をより身近に感じることができた。



[世界遺産現地学習]

4 世界遺産の保全と活用について（地域・観光ゼミ）

熊野参詣道の保全については参詣道保全活動（道普請）を行い、活用面から世界遺産を考えるために、和歌山県世界遺産センター所長に来校していただき、年間6回にわたる地域・観光ゼミを開講した。世界遺産としての質を保つことの大切さや観光面で活用するためにこれまで行ってきた和歌山県の取り組みなど、毎回貴重なお話をきくことができた。

特に、経済学的見地から世界遺産の活用を解説されることから、経済学部に進学を希望する受講生も多く、ゼミで学んだことを活かして、国公立大学や有名私立大学へ推薦試験で合格する生徒もおり、本校生の貴重学びの場となっている。

来年度以降も「地域・観光ゼミ」を開講し、世界遺産の保全と活用・世界遺産の地と地域のあり方などについて学んでいきたい。



[地域観光ゼミ]

5 次世代育成事業に参加して

次世代育成事業を通して、田辺高等学校がユネスコスクールとして世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」をフィールドに、様々な角度から学習できることは大変有意義なものである。今年度はコロナ禍での事業であったため、当初予定していた花王株式会社和歌山工場との道普請が実施できなかったことが大変残念であったが、今できる保全活動を行うことで、地域にある人類の宝物である紀伊山地の魅力を確認することができたと考えている。

特に、参加生にとって、身近にある熊野参詣道や熊野本宮大社が何故、人々を惹きつけるのかを理解でき、今後、校内で取り組む探究活動を展開する上で大変貴重な体験となった。

是非、来年度も次世代育成事業に参加していきたい。